



TITLE:

三澤勝衛氏の晩年

AUTHOR(S):

CITATION:

三澤勝衛氏の晩年. 天界 1940, 20(228): 170-171

ISSUE DATE:

1940-03-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167981>

RIGHT:

三澤勝衛氏の晩年

日毎に衰へて行く身を輸血によつて支へながら、行き詰まれる地方産業經濟打開の金文字を綴りつゝある悲壯な病床の學者と、その事業をめぐり、聞くも感激的な純情の一篇が之れである。……數日前のこと、折柄そぼ降る梅雨を冒して和田嶺の嶮へ、一枚の寫眞を求めて單身登つた霧ヶ峰スキ倶樂部の會長上諏訪本町文華堂印刷所主人上田貢氏は、記者の執拗な質問に包み切れず、仔細ある一枚の寫眞について次ぎのやうに打開けた。

“實は、三澤先生を御見舞ひしたところ、八笠山の小梨及び和田嶺の白樺が風に撫でられて、幹ごと、枝が反り返つてゐる寫眞を、只今執筆中の出版物へ挿入のため、是非欲しいと申されたので、私の手許に持ち合はせがあるやうに記憶してゐたので、それをお引受けして歸つたが、いくら探しても見當らないし、先生は生命を賭けて、只今出版を急がれつゝある際なので、その寫眞を一刻も早く御用立てしなければすまぬと考へ、拙い腕前ながら寫眞器を提げて飛び出したのです。”といふのであつた。寫眞、それを求めてゐる三澤先生とは、
 誰も誰れか？

産業地理學の權威であり、又、諏訪中學の至寶とされて居る三澤勝衛氏が、その人で、宿病の胃癌が再發したのであるが、一面、此の世に生をうけた已れの使命をかへり見た三澤氏は、“今の世に遺さねばならぬものがある”と、去る2月以來、病床に筆を起した“地方振興とその地理的教養”(古今書院から出版、菊版凡そ7百頁)上梓のため、屢々の輸血に辛くも元氣を取り戻しつゝ、聞くも見るも悲壯な姿で、今尚ペンを走らせてゐる。午前4時といふに、炬燵に寄りかゝつて、不自由の眼(天體觀測の望遠鏡で殆ど片方を失明程度に焼いてしまつた事は有名な話)を、しばたゝきながら、ペンを執り、既に前篇3百餘ページは印刷に廻し、後篇も、8分通り書き上げて、程なく完結するまでに立ち至つたが、更に引續き、5百ページ内外の“信濃地理”を書かねばならぬと、焦りつゝあるのである。

病床に見舞ふ致へ子や、友人たちは、無理にペンを執る事によつて、三澤氏の病が一層募り行くであらう事を察しながら、何れも、その悲壯な決意に打たれて、その執筆を制止諫言せんとするものなく、ひたすら、その偉業の無事完成を祈ると共に、前記の如く、一枚の寫眞をも、雨をついて山へ登り、これを求め、この事業を援けつゝあるのである。

病床を訪れると、案外元氣な三澤氏は、走らせつつあつたペンを休ませて、ぼつ々々と語るのであつた。

“地方産業經濟の行き詰りは、地理的思想の貧弱に基因するところ多く、地

方行政の任にあるもの、及び一般社會人が地理的思想を織り込む事によつて、必ず此の行き詰りは打開され、救済されると、私は、過去の體驗から、固く信じてゐます。此の地理的思想の普及こそ、私に與へられた使命であると信じ、健康が許せば、直接社會一般に向つて唱道したい氣持ちで居りますが、如何せん、現在の境遇では、それが叶ひませんので、文書によつて、せめてその使命を果さうと、病ひを押してペンを執つてゐる次第です。只今、綴つてゐる“地方振興と、その地理的教養”がまとまれば、すぐ“信濃地理”に取りかゝる豫定ですが、1日々々と身の衰弱して行くのが判りますので、急がねば、思ふだけまとめ上げる事が出来ないと考へ、あせつてゐるところです。上田さんが態々寫眞を撮りに山へ行つて下さつたのですが、何んとも御親切の程、感謝の外ありません。”（信濃毎日、昭和12年六月12日）

地 質 年 代

銀河外の多くの渦形星霧の運動の研究から、米國のホブル E. Hubble 氏が見つけた法則によれば、大宇宙の初めより今日に至るまでの年数は 2×10^9 年、即ち約20億年である。

次ぎに、今日知られてゐる隕鐵の70%は太陽系外が飛來したものであるが、此等の中に含まれてゐるヘリウム・ガスの分量から逆に其の年代を計算して見ると、やはり20億年となる。

又、今日既に廣く知られてゐる如く、我が地球の岩石中に含まれる放射能物質の研究から、地球の年齢は、之れ亦、約20億年となる。

更に此の20億年を、各地質年代に分けて見ると、

地 質 時 代	宇宙創成以來の年數	今日より遡れば
“宇 宙 創 造”	0 年	2000×10^6 年
地球にある最古の岩石 (マニトバ石)	250×10^6	1750 //
歐洲にある最古の岩石	500 //	1500 //
ローレンス岩	1000 //	1000 //
カンブリア紀の基底	1500 //	500 //
オルドビス紀	1600 //	400 //
デボン紀 //	1700 //	300 //
三 疊 紀 //	1800 //	200 //
白 堊 紀 //	1900 //	100 //
第 三 紀 //	1930 //	70 //
現 代	2000 //	0